

賀川豊彦「献身100年」



恩師マヤスと

「コープこうべ」の前身は1902(大正11)年、今から88年前にさかのぼる。当時米価が急騰し、困窮した民衆の暴動が日本各地で起こった。いわゆる米騒動で、それによって貧乏な賀川は、消費者同士で少額ずつ負担し、質のよい商品を適正な値段で供給し、生活を安定させることができる組合づくりを考えた。

この考えに賛同した実業家の楳井捨二、那須善治、平井三郎らが協力し、「神戸購買組合」と「瀬購買組合」がそれぞれ生まれた。



瀬購買組合役員会(1939年)



神戸消費組合の建物(1948年)



神戸消費組合の関係者らと



日協

生協職員らを前に話す



講演する賀川豊彦

時超え輝く 生協の理念

米騒動に衝撃

この組合が1902(昭和27)年に合併し、1991(平成3)年に「コープこうべ」を名を改めて、今日に至っている。現在組合員数は140万人を越え、単一生協としては世界最大の規模を誇っている。

「3つの誓い」

コープこうべ職員の間には「3つの誓い」の唱和が始まる。働きがい、誇りあふれるコープの心を伝える。「生協は組合員のものであること」を肝に銘じ、組合員への奉仕に徹する。「生活の安定と向上を目指す」ことを活動の指針とし、健全な社会づくりに貢献する。賀川豊彦の精神を今に伝える。

「3つの誓い」は、食品添加物、生協は早い早く厳しい品質基準を作り、メーカーをリードしてきたという自信を持つ。消費者の立場になり、生協自身が、食品衛生法の改正を促したこと。また、今も流通業界で当たり前のことになった自社(ブランド)PB商品

賀川豊彦(かがわ・とよひち)1888(明治21)年、神戸市兵庫区生まれ。幼少期(高麗をへて、徳島県の親せき宅へ)、14歳で、アメリカ人宣教師マヤス氏に出会い、洗礼を受ける。神戸神学校などで学んだ後、神戸で救貧活動を始め

る。米騒動後、労働運動、農民運動、生協運動など社会運動に身を投じる。戦後は平和運動のリーダーとして活躍。作家としても知られ、ノーベル平和賞、文学賞の候補にもなった。1960(昭和35)年死去。

明治、大正、昭和と時代の荒波の中、賀川豊彦は「弱い立場の人」に寄り添い生きてきた。時に労働者のためアモの先頭に立ち、時に貧しい農民のため組合を作り、「コープこうべ」設立の立役者ともなった。キリスト教の精神に根差した救貧・防貧活動と社会事業は、教育から医療、各種共済事業、生活協同組合(生協)運動と多岐にわたり、現代に豊かな実りをもたらしている。賀川が神戸のスラム街で救貧活動のために献身し、社会運動家としての一步を踏み出したのは、1909年12月24日、21歳だった。今年ちょうど「献身100年」。賀川とゆかりあるコープこうべなどの関係者に話を聞いた。

1951年3月 日本生活協同組合連合会創立総会



支え合って互いに向上

の開始も、生協は50年を前か「コープこうべ」で立ち上げている。独自の「コープこうべ」を自然にやさしい食の「メロ」を「目指す」。「フードバンク」では、農産物や水産物の産地、育成に独自の厳しい基準を設け、賛同する契約農家と協力し、より確かな、安全な食糧の提供(心をこめて、食べる人だけでなく、作る人も安全で、環境に配慮して生産された商品)あり、そこには、まさに賀川の理念が生きている。

生協は環境活動にも力を入れ、マイバッグ持参運動も広く実践し、世間に「環境保護運動」の流れをよみ出した。また、働く母親への子育て支援活動や福祉活動、平和を志す活動など、さまざまな社会活動を展開し、広がりをみせている。

最近では、水害に襲われた兵庫県佐用町の被災地支援のため、いち早く募金活動を行った。これは賀川の「困った助け合い」の精神に基くものだ。県民の約9割以上が組合員となり、しっかりと地域に根付いた生協の活動を見れば、賀川は驚かさない。

原点を見つめ

しかし、昨今の経済不況は厳しい。生協も例外ではない。競争の荒波にさらされている。こうした時代だからこそ、あらためて賀川の理念を大切にし、よりよい暮らしの担い手として生き抜いていく手段を模索中だ。

生協の大きな強みの一つは、宅記事業の実績が挙げられる。御用聞きから発展してきたといわれ、その利用者数は他の追随を許さない。生協では配給担当を「地域担当」と呼んでいる。単に商品を届けるだけではなく、一人暮らしのお年寄りや病



建て替えが完了し来春オープンする「賀川記念館」
神戸市中央区吾妻通5

新日本建設キリスト運動での講演



賀川記念館リニューアル

社会運動家としての膨大な仕事、事業に込められた熱い思い、現代に通じる理念。賀川豊彦の残した数え切れない財産を未来へ継承する拠点「賀川記念館」神戸市中央区吾妻通5の建て替えが完了し、来春、賀川記念館ミュージアムが館内にオープンする。

同所にあった旧記念館が老朽化したため、同館を運営している社会福祉法人「学校法人イエス団」が「献身100年」を機に建て替えた。また、豊彦の孫で、グラフィックデザイナーの賀川賢明さんが来春から館長に就任し、祖父たちの仕事の継承と紹介に二役買う。

賀川豊彦様

今から100年前、あなたが神戸に、また友愛の種子は幾多の困難を乗り越えて、日本中に根をを広げこの国のいたるところで豊かな枝葉を伸ばしています。

そんな枝葉の最初の一つが「コープこうべ」の前身、神戸購買組合と瀬購買組合でした。その事実が、私たち140万人の組合員にとって今も大きな誇りであり、喜びです。

あなたの献身から一世紀を経た今「コープこうべ」が掲げる「愛と協同」の精神は阪神・淡路大震災はもとろそその後の混乱の時代にますます求められるものとして

平和などの分野にも広がっています。

それでもなお、あなたの運動の原点となった社会の貧困と格差は、容易に解決のききしを見せません。あなたが掲げた人間愛の理想を継承し、たすけあい、誰もが安心して暮らせる社会の実現をめざし私たちがこれからも、着実に歩み続けていって決意です。

「一人は万人のために、万人は一人のために」

あなたの思いを受け継ぐ140万人の組合員の活動を、これからも天国で、見守り続けてください。

2009年12月、クリスマスの日の前に

生活協同組合コープこうべ